

第 2 期県立特別支援学校教育環境整備計画の骨子と見直しの方向性（案）

現
計
画

- 計画策定の経緯
 - ・ 障害者を取り巻く環境
 - ・ 特別支援教育将来構想と取組
 - ・ 計画期間

- 1 狭隘化の現状と課題
 - 児童生徒数の推移【H18→H28】
 - 知的障害特別支援学校の児童生徒数の見通し【H28→H45】
 - 軽い知的障害の後期中等教育の場の不足
 - 教育環境上の問題
 - これまでの狭隘化対策
- 2 障害の多様化
 - 特別支援学級（自閉・情緒）の児童生徒数の増加【H18→H28】
 - 医療的ケア対象児童生徒数の増加
- 3 特別支援学校のセンター的機能、校舎の老朽化
 - センター的機能の強化
 - ・ 相談件数の増
 - 校舎等の老朽化対策

- 1 インクルーシブ教育システム推進に向けた整備
- 2 仙台圏域の後期中等教育の整備拡充
- 3 老朽化対策
- 4 既存施設・設備を有効活用した整備
- 5 センター的機能の充実
- 6 併置型特別支援学校の設置に向けた整備

- 1 ハード面の諸対策【7つの取組】
 - 小松島支援松陵校の設置
 - 西多賀支援への知的障害併置
 - 名取支援名取が丘校の設置
 - 古川支援プレハブ校舎の増改築
 - 校舎等の老朽化対策（視覚支援）
 - 特別支援学校の新設（秋保地区）
 - 余裕教室の活用
- 2 ソフト面の諸対策【4つの取組】
 - 学習指導要領改訂と教育課程の見直し
 - 医療的ケア実施体制の充実
 - センター的機能の強化
 - 複数障害種の併置化、学科再編

改
訂
後

- 計画見直しの経緯
 - ・ 障害者を取り巻く環境
 - ・ 特別支援教育将来構想と取組
 - ・ 計画期間
 - ・ H28 推計と実績の乖離
 - ・ 設置基準公布、教室不足
 - ・ 追加対策の必要性

- 1 狭隘化の現状と課題
 - 児童生徒数の推移【H23→R3】
 - 知的障害特別支援学校の児童生徒数の見通し【H28～R3 実績と R45 までの新推計値】
 - 軽い知的障害の後期中等教育の場の現状 → 近年の定員割れ、多様な進路選択の傾向
 - 教育環境上の問題（次項に統合）
 - 特別支援学校設置基準と教室不足への対応
 - これまでの狭隘化対策
- 2 障害の多様化
 - 特別支援学級（自閉・情緒）の児童生徒数の増加【H23→R3】
 - 医療的ケア対象児童生徒数の増加
- 3 特別支援学校のセンター的機能、校舎の老朽化
 - センター的機能の強化
 - ・ 相談件数の増
 - 校舎等の老朽化対策

- H28 時点の課題認識と R3 時点の現状との乖離
- 既存対策の中間評価

- 見直し前
 - 1 インクルーシブ教育システム推進に向けた整備
 - 2 仙台圏域の後期中等教育の整備拡充
 - 3 老朽化対策
 - 4 既存施設・設備を有効活用した整備
 - 5 センター的機能の充実
 - 6 併置型特別支援学校の設置に向けた整備
- 見直し後
 - 1 インクルーシブ教育システム推進に向けた整備
 - 特別支援学校以外の進路選択を含めた見直し（見直し前の方針 2 を含む）
 - 2 設置基準を踏まえた狭隘化対策の検討【新規】
 - 基準を下回る学校（地域）の追加対策
 - 基準を大幅に上回る学校の在り方検討（見直し前の方針 4、6 を含む）
 - 3 狭隘化対策を見据えた老朽化対策の検討【修正】
 - 老朽化改築を待つとまのない学校への対応
 - 4 センター的機能の充実
 - 5 切れ目ない教育環境の整備【新規】

- 1 ハード面の諸対策【7つの取組】
 - ◎ 継続・新規
 - 小松島支援松陵校の高等部設置
 - 校舎等の老朽化対策（視覚支援）
 - 特別支援学校の新設（秋保地区）
 - 余裕教室の活用（古川支援）
 - ◎ 完了
 - 西多賀支援への知的障害併置
 - 名取支援名取が丘校の設置
 - 古川支援プレハブ校舎の増改築
 - 小牛田高等学園仮設実習棟新設
- 2 ソフト面の諸対策【4つの取組】
 - ◎ 継続・新規
 - 特別支援学校整備の在り方検討
 - 学科再編を含む整備の在り方について、定期的な庁内会議や審議会等での報告・意見聴取、次期計画検討
 - 学習指導要領改訂と教育課程の見直し
 - 医療的ケア実施体制の充実
 - センター的機能の強化
 - インクルーシブ教育システムの推進
 - 共に学ぶ教育推進モデル事業や学びの多様性を生かした教育プログラム開発
 - ICT 環境の整備の推進
 - 就学奨励費による購入支援や低所得者向けの整備による生徒一人一台の端末の整備を推進